MITSUBISHI

三菱ホームセキュリティシステム

アイテリア®

施工クイックマニュアル

このマニュアルは、販売店様、施工者様向にアイテリアシステムを取付けるときの要点を記載したものです。それぞれの取扱説明書、据付工事説明書と合わせて、施工前にお読みください。

販売店様、施工者様へ

●アイテリアシステムの性能・機能を十分に発揮させるため、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。施工の前に、それぞれの据付工事説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
●配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行ってください。
●取付工事終了後は、必ずこの施工クイックマニュアルを持ち帰ってください。

■安全のために必ずお守りください

図記号の意味は次のとおりです。

 絶対に行わないでください

 必ず指示に従い、行ってください

●カメラアダプター

・電源(交流100V)を切った状態で施工してください。
　活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。

・使用場所
　住宅などの屋内で使用してください。
　過酷な取扱いを受ける作業場、水気のある場所、屋外などでは使用しないでください。
　また、屋内での取付けは壁面へ行い、天井面、天井裏、床面などへは取付けないでください。

・取付方向
　本機を起てた状態で、各接続端子を下に向けて壁面に取付けてください。

・本機は、3㎜以上の接点距離を有する配線用遮断機(ブレーカー)を備えた住宅などへ取付けてください。その配線用遮断機(ブレーカー)は、保護アース導体を除く、主電源のすべての極が遮断できなければなりません。

●セキュリティカメラ

・電源(直流12V)を切った状態で施工してください。
　活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。

・据付高さ制限
　取付高さは、4.7m未満です。

・正しい電源ユニット(直流12V)で使う。
　専用カメラアダプター以外の電圧を使用した場合、火災や感電の原因となります。

・屋内配線とカメラ映像・電源ケーブルを並列配線したり、一緒に束ねないようにしてください。
　映像信号にノイズが発生したり、誤動作するおそれがあります。

■使用上のお願い

●セキュリティカメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
住宅環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビのそばで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。据付工事説明書に従って正しい取扱いをしてください。

●カメラアダプターとセキュリティカメラには、電源スイッチはありません。電源を切るときは、カメラアダプターを接続しているブレーカーを落としてください。

●セキュリティターミナル後面のカバー内の入出力端子について、不適切な接続をすると事故の原因となるためお客様ご自身で機器を接続しないようお願いしています。拡張機能の設定方法(入出端子設定)と合わせ、お客様への内容の公開は避けてください。

もくじ

セキュリティシステムケーブル接続図

1．セキュリティカメラ(DH-SCシリーズ)

1.1 取付位置の選定と注意事項

セキュリティカメラDH-SCシリーズ(以下、カメラ)の取付位置を、以下の項目に配慮し慎重に選択してください。

●施主様宅の防犯上、効果のあるエリア(監視エリア)を見渡せ、侵入者の顔が確認できる位置を施主様と相談の上、選択してください。

●セキュリティターミナルの動き検知機能で対象物を検出できる画角にカメラ取付位置を選択し、バリフォーカルレンズの設定を行ってください。[図1参照]

●プライバシー、肖像権保護の観点から、カメラを目的に応じた適正な場所、方向を選んで正しく設置してください。また、人の住居、浴場、更衣室、トイレ、その他、人が通常衣服をつけないでいる場所が画角に入るような設置を行わないでください。

●監視エリアの画角に、直接太陽が入らない場所にカメラ取付位置を選択してください。

●太陽が画角内に長時間入ると、CCDの寿命が短くなります。

●夜間交通量の多い場所では、ヘッドライトなどの強い光が画角に入らない場所を選択してください。

●降雪量が多い地方でご使用になる場合は、カメラの直前を雪が横切らないよう、屋根やひさしなどに覆われた場所を選択してください。

●セキュリティカメラDH-SC200の夜間(近赤外線照射)モードでは、赤外線照射の反射光により昼に黒っぽく見える対象物が白っぽく見えたり、カメラの直前を横ぎる雨、雪、虫、チリ、煙、水蒸気および熱気などを白い線、白い点やもやとして映し出す場合があります。また、夜間にセキュリティターミナルの動き検知機能と組み合わせてご使用になる場合、前記の白い線、白い点やもやを検出する場合があります。このような夜間の降雨、降雪、虫、チリ、煙、水蒸気および熱気などによる動き検知機能の検出動作を少なくするには、屋根やひさしなどに覆われた場所にカメラを設置してください。目安として、降雨、降雪する範囲(雨線)から、カメラのレンズ部までの距離を50cm以上離してください。[図2参照]

●取付壁面の選定

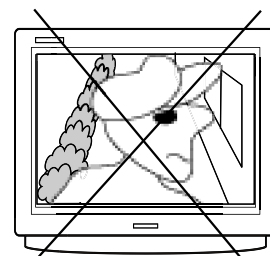
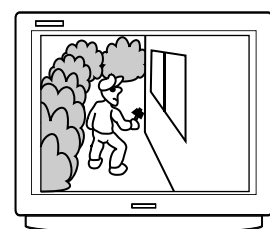
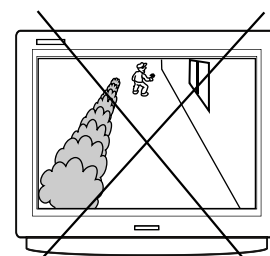
①事前に、壁面内の裏壁、天井、1F裏天井などへの通線が可能か、住宅構造を確認してください。カメラの取付けは、カメラの重量(約1.6Kg)に耐える場所で、高さ4.7m(カメラ直下で、人の入れる場所からの高さ)未満の場所を選択してください。

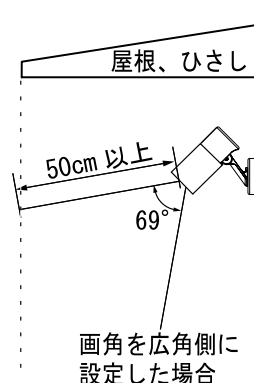
②デイナイトタイプのDH-SC200では、カメラレンズ部60cm近傍の画角内に、壁や窓ガラスなどの反射しやすい物がある場所への取付けは避けてください。夜間、近赤外線照明の反射により夜モードと昼モードが交互に切り換わり、その結果画像が黒っぽくなったり、白っぽくなったりを繰り返します。

③必ず壁面に付属品の<u>取付板固定ネジ</u>で、しっかりと固定できる位置を選択してください。

●市販のネジ(頭の小さいネジ)を使用すると、カメラがしっかり固定できません。

(次ページにつづく)

バリフォーカルレンズ
ズームレンズの一種、レンズのズームに合わせ、ピントが移動するレンズ。従って、ズーム操作をするたびに、ピント調整が必要になる。

監視対象が近すぎると確認しずらくなります。

監視対象の距離が適切

監視対象が遠すぎても確認できません。

[図1]

画角：テレビモニターに映る範囲

[図2]

(前ページからのつづき)

④付属品の“据付工事説明書　可動範囲説明シート”を参考に、カメラ取付調整時に必要となる旋回範囲と取付工具を差し込むための周辺スペースを確保してください。[図3, 4参照]

●通線用壁面穴は、結線に用いたF型接栓とJJコネクタを自己融着テープと防水テープで巻いた結線部の径([A部]:参考寸法　Φ21mm以上)を基準に設定してください。また、自己融着テープと防水テープで固定された結線部は、およそ100mmとなります。結線部が壁面内へ収まるよう、壁面奥行きを考慮して、通線用壁面穴をあけてください。[図5参照]

●付属品のパッキンと取付板固定ネジを用いて、取付板を取付けてください。[図6参照]

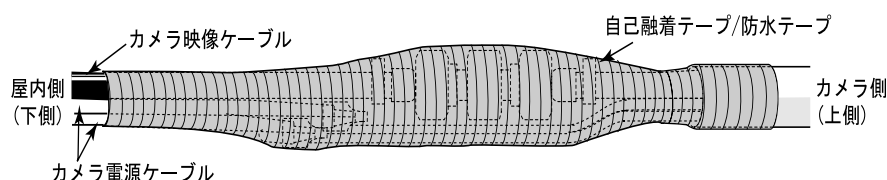
●カメラ取付作業時は、カメラの本体をキズつけないように梱包用袋を被せて保護してください。

1.2 防水について

●結線部

①ケーブル結線部からカメラ内部へ浸水することがあるので、結線部は必ず壁面内へ収めてください。やむなく結線部が屋外へ出る場合は、カメラ取付位置に対して、結線部が低いところに位置し、直接雨水がかからない場所へ取付けてください。

②同軸ケーブル、電源ケーブルを結線後、必ず自己融着テープと防水テープを巻き、結線部を防水してください。[図5参照]

●結線部の防水性を確保しないと、カメラ筐体内の防水性能を損なうことがあります。

結線部の防水方法

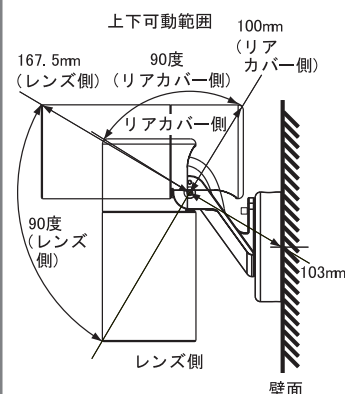
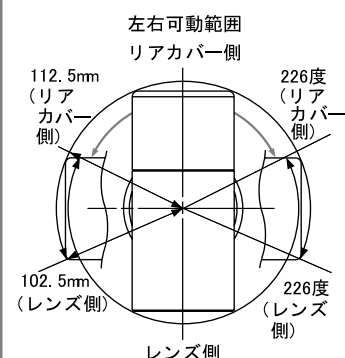
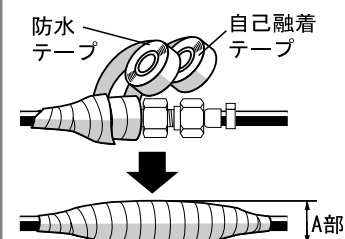
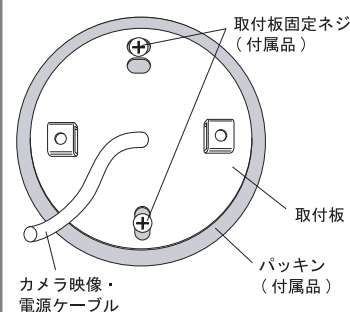
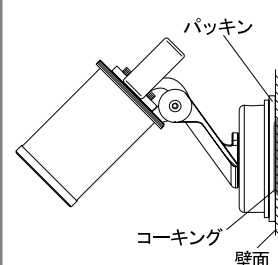
●カメラ側の結線部を上にしてください。

●通線用穴

ケーブルを伝っての屋内への浸水を防ぐため、通線作業後開口部をコーキング処理してください。

コーキング材(参考):セメダイン社製
「シリコーンシーラント8060」

●壁面とパッキン(付属品)

壁面とパッキンとの間をコーキング処理してください。壁面取付部に凹凸があると、パッキンの防水性が損なわれ、ケーブルを伝った水滴の壁面内侵入やケーブル接線部の絶縁不良による感電・火災の原因となります。[図7参照]

[図3]

[図4]

[図5]

[図6]

[図7]

●ケースボディとゴムパッキン
　据付工事説明書を参照し、ケースボディが突きあたるまで右へ回し、推奨トルク2N･m(20kgf･cm)で締めて、しっかりと固定してください。

1.3 通線線材・距離・引き延ばし時の注意事項

　配線に使用する線材は、各機器で指定の物を使用して、以下の項目に注意してください。

●屋内配線とカメラ映像・電源ケーブルを並列配線したり、一緒に束ねないようにしてください。映像信号にノイズが発生したり、誤動作するおそれがあります。

●同軸ケーブルやLANケーブルは、芯線保護とノイズを防止するため、ステープルなどで打ち込まないでください。

●参考線材
　同軸ケーブル：3C-FV,4C-FV,5C-2Vなど
　電源ケーブル：AE線　芯線　Φ0.75㎜品

3C同軸ケーブルは芯線が細く接触不良を起こしやすい為、ピン付F接栓を使用下さい。

1.4 カメラ画角・方向の設定手順

①ブレーカーを入れて、カメラアダプターに電源を供給します。

●感電ならびにショート(短絡)にご注意ください。

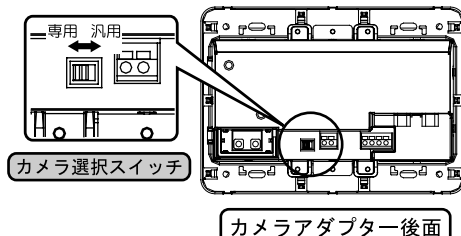
②カバー、リアカバーを外します。[図8参照]

●ケースボディからケースフロントを外さないでください。外すと防水性が保証できません。

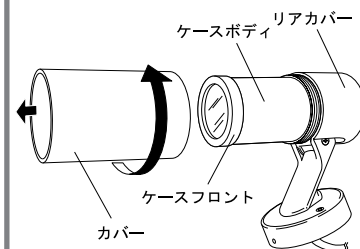
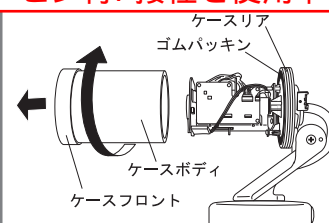
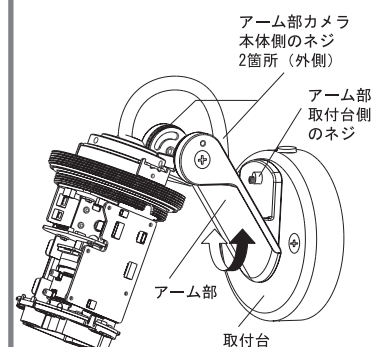
③ケースボディを外し、カメラ部を剥き出しにします。[図9参照]

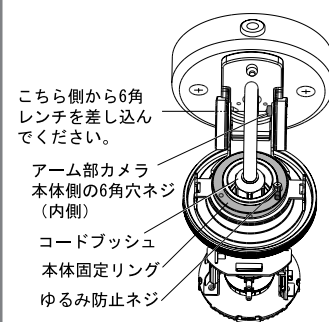
④アーム部カメラ本体側のネジ２箇所、アーム部カメラ本体側の６角穴ネジ(内側)、ゆるみ防止ネジ、本体固定リングを緩めます。[図10,11参照]

⑤カメラ調整用モニターを接続します。モニター映像を確認しながら撮影方向を決定し、各固定ネジの仮止めを行います。

●カメラ映像がでない場合は、以下の内容を確認してください。
・カメラ電源ケーブルの極性が、正しく接続されているか確認してください。
　カメラ側の赤色ケーブルとカメラアダプター側の＋端子からのケーブルを繋いでください。
　カメラ側の白色ケーブルとカメラアダプター側の－端子からのケーブルを繋いでください。
・同軸ケーブル内の芯線とアース線がショートしていないか確認してください。
・カメラアダプターのカメラ選択スイッチが「専用」側になっているか確認してください。

●DH-SCシリーズを接続する場合　:『専用』
　その他のカメラを接続する場合　:『汎用』

※「汎用」を選択すると、カメラへの電源供給は停止します。

(次ページにつづく)

[図8]

[図9]

[図10]

[図11]

(前ページからのつづき)

⑥フォーカス調整を行うため、2本のネジを緩めてカメラのLED基板を外します。[図12参照]

●LED基板は、LED基板固定ネジを緩めるだけで取外せます。LED基板固定ネジは、外さないでください。また、LED基板へ接続しているリード線は、外さないでください。

⑦撮影中心となる対象物に対して、ズームとフォーカスの調整を行います。[図13,14参照]

⑧このとき、必ずフォーカス調整スイッチを押して、しぼりが開放している間にフォーカス調整を行います。[図15参照]

⑨取付場所により、逆光補正スイッチ、フリッカー補正スイッチを「ON」にします。(工場出荷時:「OFF」) [図15参照]

⑩カメラにLED基板を取付け、2本のネジを締めます。

⑪本体固定リング、ゆるみ防止ネジの順で締めて固定します。ゆるみ防止ねじは、推奨締付トルク0.45N・m(4.6kgf・cm)で締めて、しっかり固定します。

⑫アーム部カメラ本体側のネジ2箇所、アーム部カメラ本体側の6角穴ネジ(内側)を締めて固定します。

⑬付属品の'据付工事説明書 乾燥剤取付説明シート'を参照し、乾燥剤(付属品)を取付けます。

⑭ケースボディーを突きあたりまで右へ回し、推奨トルク2N・m(20kgf・cm)で締めて、しっかりと固定します。

⑮リアカバー、カバーの順に取付けます。

⑯アーム部取付台側ネジを固定します。

[図12]

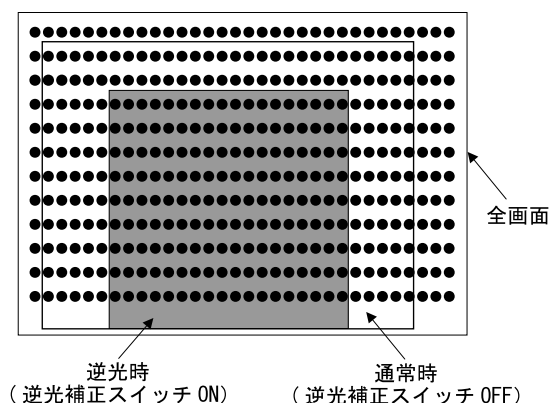
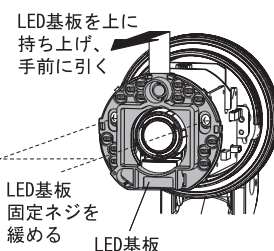
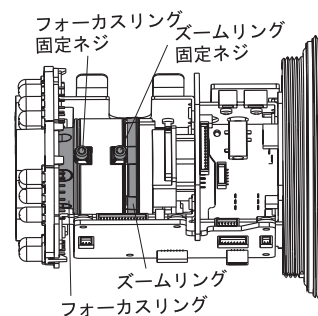
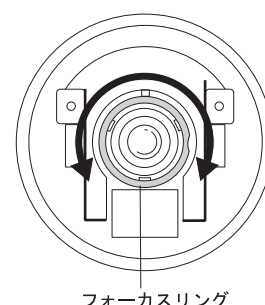
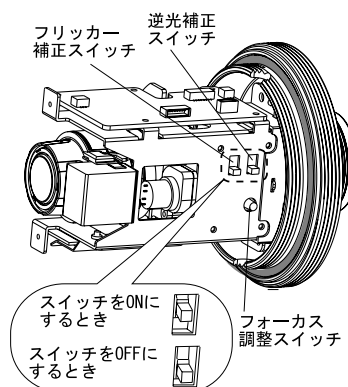
[図13]

[図14]

[図15]

1.5 逆光補正スイッチ(工場出荷時:「OFF」)

このスイッチを「ON」にすると、画面中央部のみの輝度レベルだけでしぼりを自動調節するため、周辺部は白つぶれ(まれに黒つぶれ)気味になりますが、中央部は適度の明るさとなります。テレビモニターに映る範囲内に青空が入ると中央部に影ができる場合などがあります。この場合は、カメラ取付時に「ON」に設定してください。[図15参照]

下図に、通常時と逆光補正時の自動しぼり調節画面範囲を示します。昼・夜ともに同じ設定が摘要されます。

自動しぼり調節の対象となる画面範囲の図
(セキュリティターミナルの動き検知エリアドット
との概略位置関係)

●あくまで補正ですので、直接太陽光がカメラの画角に入らないように設定してください。CCDセンサーの寿命が短くなります。

1.6 フリッカー補正スイッチ(工場出荷時:「OFF」)

カメラをご使用になる地域の電源定格周波数が50Hzで映像のチラツキが気になる場合は、フリッカー補正スイッチを「ON」にします。このスイッチを「ON」にすると、1/100秒のシャッター速度となり、フリッカー現象(画面のちらつき)を防ぎます。(スイッチを「OFF」にすると、1/60秒に設定されます。)[図15参照]

1.7 フォーカス調整スイッチ

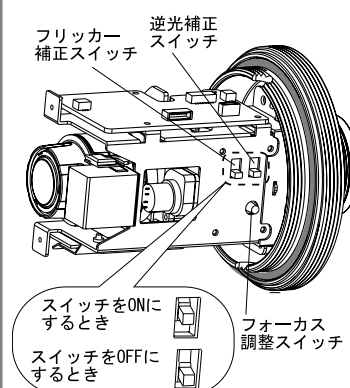
必ず、フォーカスを合わせるときは使用してください。

使用しないと、日中にはフォーカスが合っていても、暗くなるにつれてフォーカスがボケて見えることがあります。

したがって、フォーカス調整時にこのスイッチを押して所定の時間だけ強制的にしぼりを開放して、自動電子シャッターによる入光量の調節動作へ切り換えます。つまり被写界深度が浅い状態となるため、より精度の高いフォーカス調整が可能となります。所定の時間が経つと自動的に通常状態に戻りますので、フォーカス調整を完了できなかった場合は、再度このスイッチを押して調整を続けてください。[図15参照]

1.8 レンズの清掃

●カメラのレンズ面や前面ガラスを汚してしまった場合
そのままで使用すると、画像がぼやけて見えることがあります。レンズ面や前面ガラスの清掃は、レンズ面のコーティングのキズつき防止や、埃が残らないように、レンズクリーニングペーパーをご使用ください。スプレー式のクリーナーは、使用しないでください。

●クリーニングペーパーは1回拭き取るごとに、同じペーパー部分は使用しないようにしてください、埃が再付着することがあります。

[図15]

2．カメラアダプター（DH-SBシリーズ）

2.1 取付位置の選定と注意事項

●取付後のメンテナンスが可能な壁面部を選択してください。
●カメラアダプターの取付場所は、後日のメンテナンスにそなえ必ず紙面などに記載して、施主様に渡してください。

2.2 取付穴

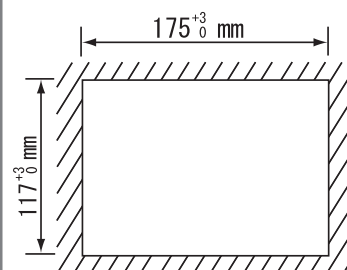
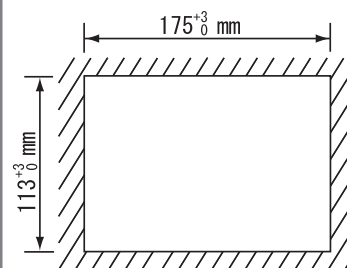
●はさみ金具（別途手配）を使って取付ける場合
パネル壁や石膏ボード壁に直接取付ける場合は、壁の厚みに合わせてはさみ金具などをご使用ください。[図16参照]
はさみ金具（推奨品）：
松下電工株式会社製
フルカラー石膏ボード用はさみ金具「WNH3992」

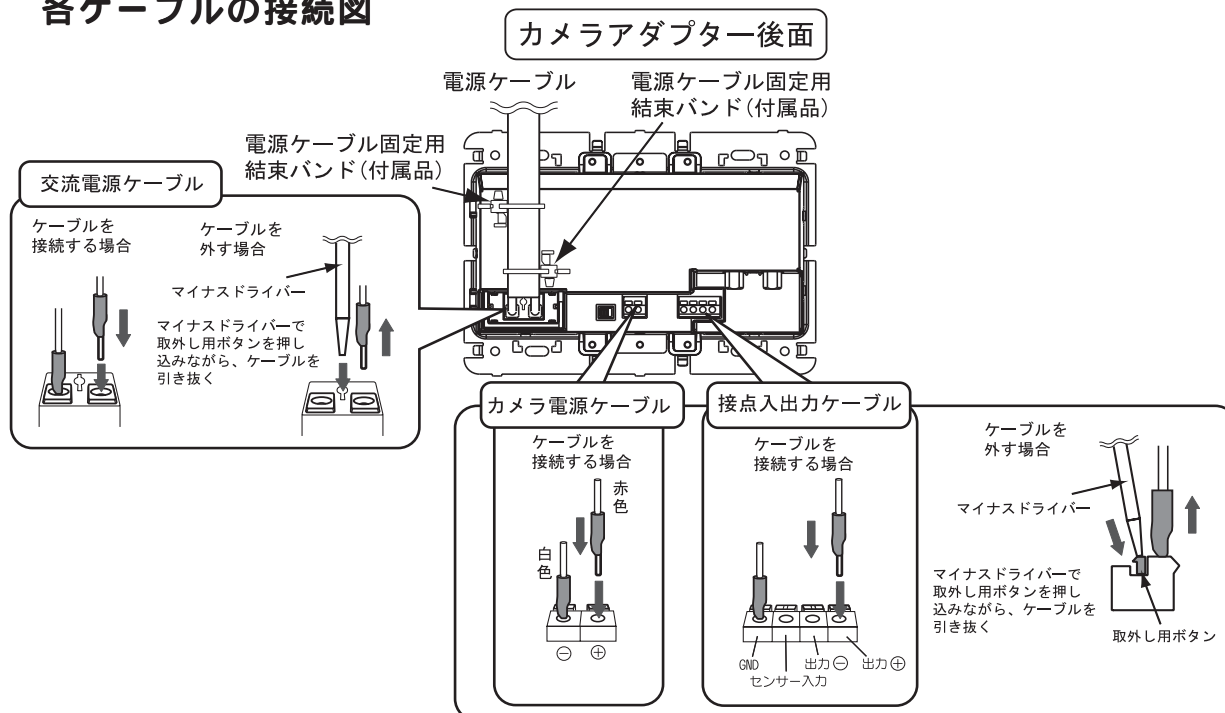
●石膏ボード壁への取付けは、脱落を防止するため、必ずはさみ金具を使用してください。

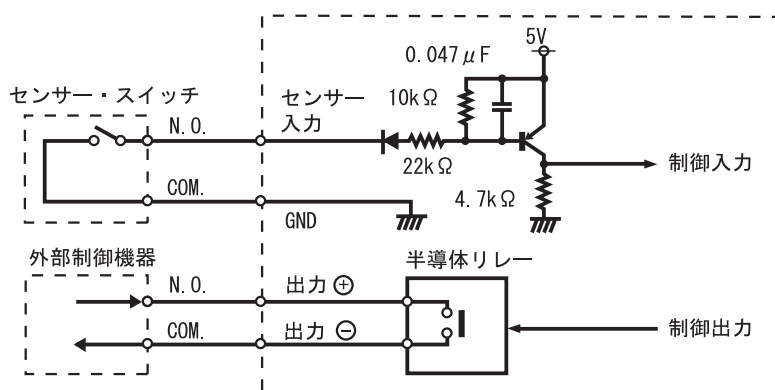
●スイッチボックス（別途手配）を使って据付ける場合[図17参照]
スイッチボックス（推奨品）：
松下電工株式会社製「DM3731」（カバー無しタイプ）

●据付け用ネジ（別途手配）は、M4ネジで壁の厚み+11～13㎜のものを4本使用してください。
●スイッチボックスは、上記指定以外は使用できません。
●ボックスカバーは不要です。

2.3 交流電源ケーブル/カメラ電源ケーブル/接点入出力ケーブルの接続

●カメラアダプターのカメラ電源/接点入出力端子に交流100Vは、絶対接続しないでください。
●電源ケーブル外れによる感電防止のため、電源ケーブルを上から回して、必ず電源ケーブル固定用結束バンド（付属品）で、2箇所固定してください。結束して余った部分は、ペンチなどで切り取ってください。

はさみ金具用壁の穴あけ寸法
[図16]

スイッチボックス用壁の穴あけ寸法
[図17]

各ケーブルの接続図

●**入出力接点端子には、最大負荷電流と極性があります。下記、接続図を参照し正しく接続してください。**

接続図

<出力⊕、⊖端子について>
・無電接点出力　(a接点)
・接点容量　直流7～30V
・最大負荷電流　0.5A

注）直流電圧専用です。極性を正しく接続してください。
過電流時は、電流を遮断します。負荷電流が正常に戻ると、
通常のリレー動作に自己復帰します。

●**カメラアダプターとカメラの接続状態は、カメラアダプターの動作確認用LEDで行えます。詳細は、カメラアダプターの据付工事説明書の“■ 動作確認用LEDの点灯パターン”を参照してください。**

3. セキュリティターミナル(DH-STシリーズ)

3.1 セキュリティターミナルとカメラアダプターとの接続

セキュリティターミナルとカメラアダプターとの接続については、壁面にテレビターミナル[図18参照]を取付けて、そのテレビターミナルとセキュリティターミナルを同軸ケーブルでつなぐか、壁面に通線用穴をあけてカメラアダプターからの同軸ケーブルをセキュリティターミナルへ直接つなぐ方法があります。

[図18]

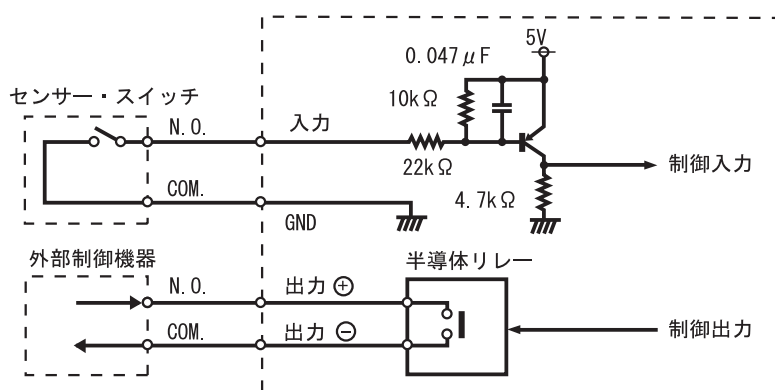
●テレビターミナルを使用する場合は、直流貫通タイプ（BSアンテナ配線に使用可能なタイプ）をお選びください。

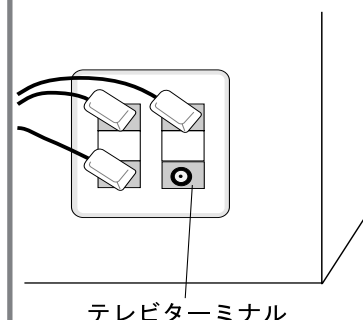
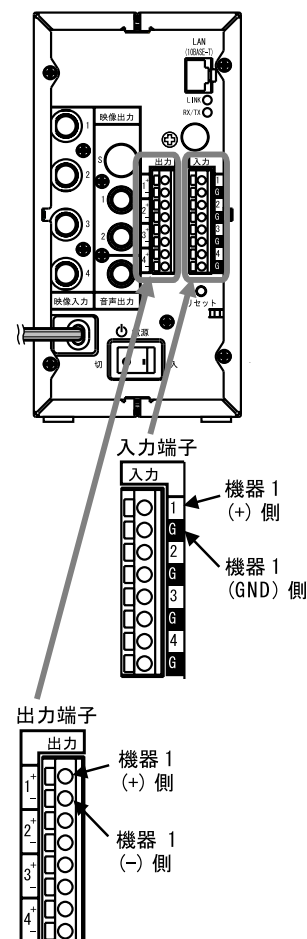
テレビターミナル(参考)：松下電工株式会社製
「テレビターミナル　WCS38809」

3.2 入出力端子設定時の注意

入出力接点端子には、最大負荷電流と極性があります。下記、接続図を参照し正しく接続してください。[図19参照]

●各種ケーブルの取付け完了後は、セキュリティターミナルのカバーを取付け、ケーブルを結束バンドで固定してください。

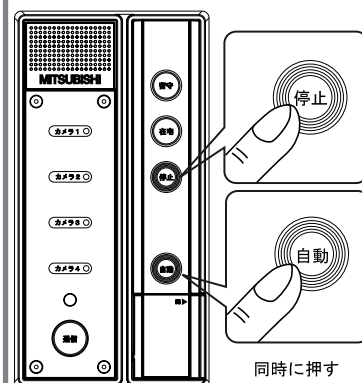
接続図

<出力⊕、⊖端子について>
・無電接点出力　(a接点)
・接点容量　直流7～30V
・最大負荷電流　0.5A

注）直流電圧専用です。極性を正しく接続してください。
過電流時は、電流を遮断します。負荷電流が正常に戻ると、通常のリレー動作に自己復帰します。

[図19]

4. 拡張機能設定(入出力端子設定)

カメラアダプターに入出力機器のケーブルを接続して、セキュリティターミナルを自動的に動作させるときは以下の設定を行ってください。ここに記載している設定は、1例です。施主様のご要望に応じて設定してください。

●セキュリティターミナル後面のカバー内の入出力端子について、不適切な接続をすると事故の原因となるためお客様ご自身で機器を接続しないようお願いしています。拡張機能の設定方法(入出力端子設定)と合わせ、お客様への内容の公開は避けてください。

入出力端子設定
セキュリティターミナルに入力装置(人感センサー/ボタン/スイッチなど)と出力装置(LED/回転灯 / ブザーなど)を接続したときにそれぞれを動作させるためのセキュリティターミナルの設定をいう。

●接点入出力端子の設定

セキュリティターミナルの入出力端子およびカメラアダプターの接点入出力端子の設定例を示します。
各設定項目の詳細は、技術マニュアル(基本編)を参照してください。

1)設定画面を表示します。

①メニュー画面を表示していないこと、セキュリティターミナルの「停止」だけが点灯していることを確認します。
「在宅」または「留守」が点灯している場合は、<u>「停止」ボタンを2秒以上</u>押し続け、停止モードに設定します。
「自動」が点灯している場合は、<u>「自動」ボタンを2秒以上</u>押し続け、自動モードを解除します。

②セキュリティターミナル本体の<u>「停止」と「自動」ボタンを同時に6秒以上</u>押し続けます。[図20参照]

③<拡張機能設定>画面が表示されるので、リモコンを使って「入出力端子設定」を選択します。

同時に押す

[図20]

設定例:

<拡張機能設定>画面

<入出力端子設定>画面

④<入出力端子設定>で設定したい端子を選択すると、設定画面が表示されます。

(次ページにつづく)

(前ページからのつづき)

2)設定を行います。

①カメラアダプター/セキュリティターミナルの出力端子の設定

・「カメラアダプター ①」の接点出力端子の設定例を示します。

・セキュリティターミナルの「拡張出力端子1」は<本体出力端子設定>画面で行います。(設定項目は同様です。)

設定例:

②カメラアダプター / セキュリティターミナルの入力端子の設定

・ カメラアダプター ①の接点入力端子の設定例を示します。

・セキュリティターミナルの拡張入力端子は< 本体入力端子設定> 画面で行います。(設定項目は同様です。)

設定例:

③設定画面を閉じると設定完了です。

テレビモニターにカメラ映像が映っているか、カメラLEDが動作しているかを確認してください。

5. 通信設定

●ルーター設定は、お客様のパーソナルコンピューターは使用せずに、持ち込みのパーソナルコンピューターで行ってください。誤まった設定変更をすると、通信できなくなるので手順をよく理解して設定を控えながら実施してください。

5.1 インターネットへの接続

(モデムとルーターを用いている環境)

各設定項目の詳細は、通信設定マニュアルを参照してください。

①ルーターのLAN側のIPアドレス(A)を確認します。

②LAN側で使用可能なIPアドレス(B)を探します。

③使用可能なIPアドレス(B)をセキュリティターミナルに割り当てるため、セキュリティターミナルの<通信設定>画面のIPアドレスの項目にIPアドレス(B)を設定します。

<通信設定>
>>IPアドレス　192.168.000.100 →「IPアドレス(B)」を設定します。
サブネット マスク　255.255.255.000 →初期設定。(このまま使用ください。)
ゲートウェイ　192.168.000.001 →「IPアドレス(A)」を設定します。
DNSサーバーアドレス1　000.000.000.000 →プロバイダーから割り当てられるアドレスを設定します。
DNSサーバーアドレス2　000.000.000.000 →プロバイダーから割り当てられるアドレスを設定します。
ユーザーアクセスポート番号　53705 →初期設定。(原則として、このまま使用ください。)
設定変更後、設定または戻るボタンを押すと再起動します
[▲/▼] で選択　[決定] で確定　[戻る] で戻る

④ゲートウェイの項目にルーターのLAN側のIPアドレス(A)を入力します。

ルーターのLAN側アドレス

IPアドレス(A):＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿

セキュリティターミナルに使用可能な空きアドレス

IPアドレス(B):＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿

●お客様の通信環境を確認して、「IPアドレス」/「サブネットマスク」/「DNSサーバーアドレス1」/(「DNSサーバーアドレス2」)を必ず設定してください。

(次ページにつづく)

IPアドレス(A)
「ポートフォワード設定」のプライベートIPアドレス(A)のこと。

IPアドレス(B)
LAN側のネットワーク内で他の機器が利用していない空きIPアドレスのこと。

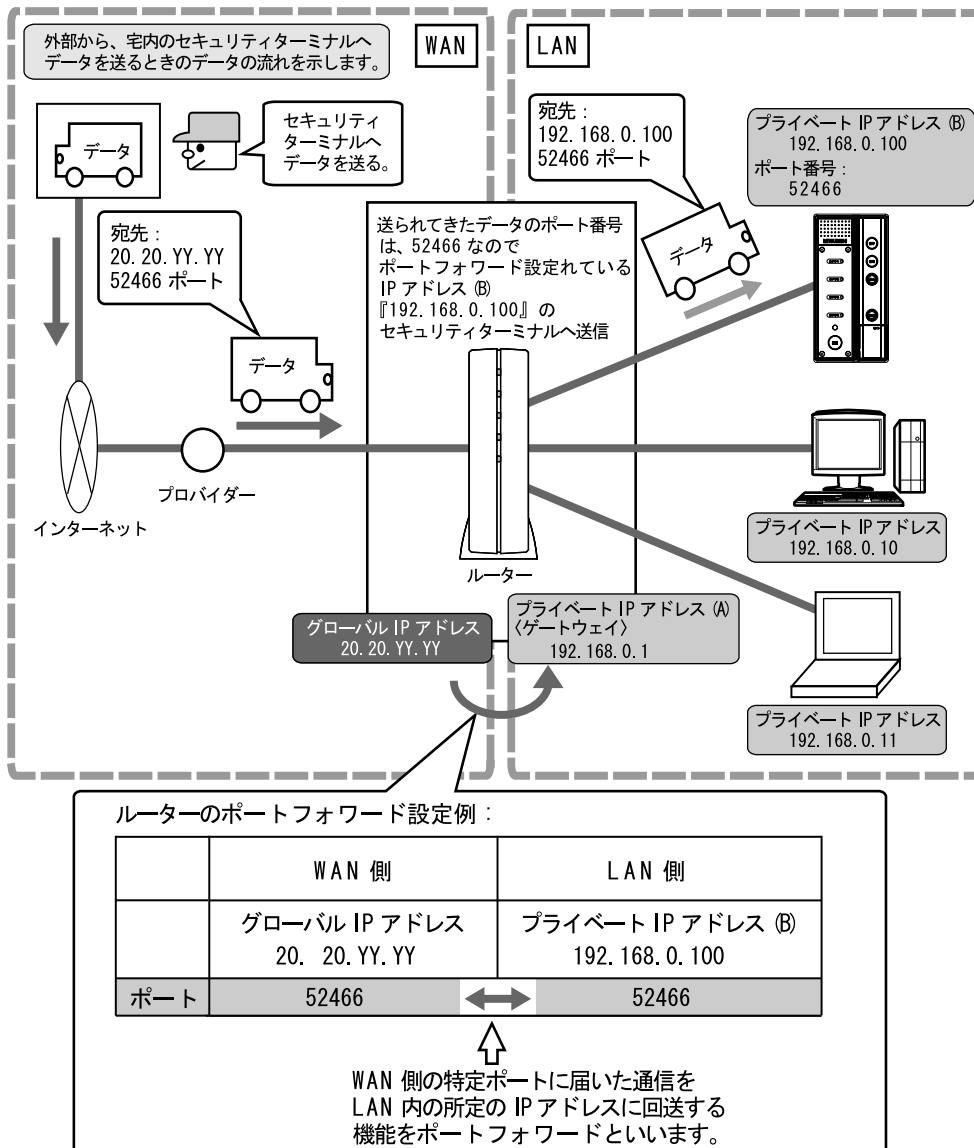
サブネットマスク
TCP/IPプロトコルなどを使ったネットワークは、巨大なネットワークを複数の小さな部分(サブネット)に分割して管理されている。サブネットマスクは、この小規模なネットワーク内の住所にあたるIPアドレスのうち、何ビットをネットワークを識別するために使用するかを定義する数値。クラスCを例にすると、「255.255.255.0」が多く用いられる。

ゲートウェイ
広義では自分が使っているネットワーク(LAN)から別のネットワークに接続して、データを送ったり受け取ったりするために必要な機器やコンピューター、あるいはソフトウエアのこと。ここでは、その機器を指定するIPアドレス(A)を設定する。

DNSサーバー
DNS: Domain Name Systemの略。数字の羅列で表されているIPアドレスでは扱いにくいので、人が覚えやすいようにドメイン名と呼ばれる[例:mitsubishi.co.jpなど]の名前に置き換えるDNSが用いられている。このIPアドレスとドメイン名の対応表を持っているサーバーがDNSサーバーである。ここでは、契約しているプロバイダーが登録書などで指定するDNSサーバーのIPアドレスを設定する。

(前ページからのつづき)

ポートフォワード設定 (概略説明と設定例)

	WAN 側	LAN 側
	グローバル IP アドレス 20. 20.YY.YY	プライベート IP アドレス Ⓑ 192.168.0.100
ポート	52466 ↔	52466

ポートフォワード
ブロードバンドルーターなどが、特定のポートで受信したパケットを LAN 上のホスト(パーソナルコンピューターなど)に転送する機能のこと。

グローバルIPアドレス
インターネットに接続された機器に割り当てられる固有のWAN側 IP アドレスのこと。

プライベートIPアドレス
宅内などの閉じられたネットワークの中で割り当てられるLAN側 IP アドレスのこと。

5.2 ポートフォワードの設定

ポートフォワードは、WAN 側のポート番号52466(セキュリティターミナルのデフォルト設定)をインターネットの外からの着信ができるように開放する必要があります。

ルーターの取扱説明書を確認して、セキュリティターミナルに設定したIPアドレス(B)とポート番号52466とを関連付けます。

●ポートの設定について、ルーターのメーカに問い合わせる場合の問い合わせ例：

IPアドレス ***.***.***.***(セキュリティーターミナルに設定したIPアドレス(B))に対して、ポート番号52466を用いてインターネット上からアクセスできるようにしたい。

IPアドレス ***.***.***.***は、上り下りとも52466を用いてます。プロトコルはTCPです。

ポートフォワードの設定
「NAT」「IPマスカレード」「バーチャルサーバー」「アドレス変換」などとも表現される。
各ルーターの取扱説明書をお読みください。

改定履歴

改定ページ	改定日	改定理由/内容
表紙 5-11ページ B	‘ 05-06-24	アイテリアを登録商標に修正。 カメラ画角・方向の設定手順、①の誤記修正。　それによる図番の修正。

施工に関するお問合わせ先

三菱電機株式会社　京都製作所

　セキュリティシステム営業課アイテリアテック

〒617-8550　京都府長岡京市馬場図所1番地

電話 075-953-8481